

私たちは、「勉強っておもしろい！」を目指して、子どもたちが主体的に学習に取り組む態度の育成を目指します。そのために、以下のような授業展開を行います。

- ① 学習のめあてを子どもが作る→教科書や先生が示した学習のめあてだけで授業を始めるのではなく、子どもが毎時間、自分で自分の学習のめあてを考えることができるようにする。
- ② 学習過程を子どもが作る→指導書や先生が示した学習予定だけで学習を進めるのではなく、子どもが自分で学習過程を考えることができるようにする。
- ③ 分かるまで(できるようになるまで)何度でも自分の学習を振り返り、もっと良い学習の仕方はないかを自分で考え、学習過程を修正しながら繰り返し課題に取り組むことができるようにする。

## 指導方法の課題分析と具体的な授業改善策(平成30年度)

第4学年

立川市立第一小学校

	児童の実態 (○いいところ ●課題)	指導方法	具体的な授業改善策
国語	○すすんで読書をする児童が多い。 ○漢字辞典の使い方に興味を示す児童が多かった。 ○自分の考えを伝え合う学習では、ほとんどの児童が意欲的に意見交換することができた。	・朝学習や隙間の時間に読書するよう声かけた。 ・限られた時数の中での指導となったので、日々の学習で、意味調べや熟語集めで国語辞典や漢字辞典を使う機会を作った。 ・児童の身近にある事柄を話題にすることで意見を述べやすくした。	
	●新出漢字の学習には積極的だが、習った漢字を日頃から積極的に使わないので定着していない児童が多い。 ●相手意識をもって話を聞いたり、話の内容を理解しながら話を聞いたりすることが定着していない児童が多い。(何となく聞き、細かいところを聞き落としている児童が多い)。	・新出漢字の練習は毎日行い、定期的に小テストを行った。 ・聞き方(話す人の方を見て聞く、自分の考えと比べながら等)を確認してきた。 ・また、文章や問題を読む時は主語、述語を確認しながら読むよう声かけしてきた。	・日頃からのノート指導で既習漢字を使うことや間違いの訂正を促すなど、漢字を正しく読み書きする練習を重ねる。 ・一人一人が大きな声ではっきりと発言できるよう声のものをさしを活用し、状況に応じた声の大きさと話せるよう指導する。家庭学習で音読の課題を継続して出す。 ・引き続き、聞く姿勢を徹底させる。また、「聞き方名人十の道」を活用し、意識を高める。
社会		・教科書を読むだけでなく、イラストから読み取り、ICTや副読本を利用した情報収集、実際に触れてみる等の体験的な学習も多く取り入れてきた。 ・他教科でも、地図帳を活用するよう心がけた。	
	●自分の生活と関連付けて考えることができない児童は必要な言葉を覚えられない。 ●資料を読み取る力、分かったことをまとめる力を付ける必要がある。	・言葉をそのまま覚えるのではなく、生活に関連付けながら資料を読み取ったり、調べたり考えたりできる授業をつくる。	・自分の生活と関連付けて考えられるよう授業での振り返りを大切にし(一小スタンダード)、学習内容を深められるようにする。
算数	○計算問題等は最後まで意欲的に取り組める児童が多い。	・ワークテストやレディネステストの結果や授業態度を参考にして、習熟度別にクラスを分け、課題が早く終わった児童には追加のプリントを用意して、個々に応じた指導をしてきた。	
	●速く解くことばかり意識してしまい、ケアレスミスをしている児童が多い。 ●問題を解く早さに気をとられ、数字の書き間違いをしている児童がいる。	・問題を解き終わった児童に、計算の再確認や単位の付け忘れがないかなど見直しの声かけを繰り返し伝えてきた。 ・1学期の復習では、まとめテストでできていなかった問題を多く取り入れたプリントを用意し、練習問題に取り組み、知識の定着を図った。	・見直しの定着を図るため、問題を解き終わった後、見直しをするよう声を掛け、再度計算した筆算は消さずに残し、最初に書いた答えと比べさせる。 ・テスト返却後に直しをする時間を設定し、再度考える時間をつくり、数字の書き間違いを減らす。
理科	○観察、実験にすすんで活動している児童が多い。	・観察カード、ワークシートの活用、体験的な活動を取り入れ、学習意欲を高められるようにした。	
	●実験に真剣に取り組むことができるが、実験結果から分かることを文章にまとめることが苦手。	・問題→予想→結果→分かったことのステップで実験の流れが定着するようにした。 ・問題に対しての答えのように書くよう指導をしてきたが、なかなか定着しない。	・実験の前に学習のめあてを必ず確認し、実験を通して知りたいことを明確にする。 ・自分の立てた予想と比べて考えを深めるようにする(一小スタンダード)。 ・問題に対しての答えを書くよう指導する。 ・まずは小集団から実験結果に関する意見を交流させ、学び合いながら結果をまとめる機会をつくる(一小スタンダード)。
音楽	○のびのびと楽しんで音楽表現できる児童が多い。 ○自分の思いをもって音楽をつくる活動に楽しんで取り組むことができる。	・常時活動として発声練習をしたり、体を動かしたりする活動で、楽しみながら技能を身に付けられるようにした。 ・簡単な旋律づくりや、グループでアンサンブルをつくる活動など、色々な学習形態で取り組んだ。	
	●自分たちの歌声を聴き合うなどして、よりよい表現に高めていこうという意識はまだ弱い。	・歌唱では客観的に歌声を聴き合い、よりよい表現を考える活動、器楽ではペアで聴き合ってアドバイスをし合う活動などを取り入れた。	・自分たちの演奏をタブレットを活用して、客観的に振り返る機会をつくる。
図	○表現の喜びを感じ、主体的に表現しようとする児童が多い。	・児童が主体的に楽しんで取り組める題材を工夫した。制作途中での鑑賞を大切にし、お互いの活動から学び合うことを促した。	

工	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自律的に表現に取り組む力には課題がある児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを明確にして、自ら課題をはっきりもって取り組めるよう授業を工夫した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作中のメモや授業の振り返りなどから、表現を深められるよう指導する。鑑賞の時間を大切にして、学び合う姿勢をもたせる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自らすすんで体を動かしたり、運動内容に適した動きをしようとする姿勢が見られる。</li> <li>○準備や片付けを友達と協力し合いながら行うことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとにワークシートを作成し、本時のめあてを明確した。ワークシートの記入を通して、自分の活動を振り返ることができるようにした。</li> <li>・単元の第1時で道具の準備の仕方や必要な物の確認を丁寧に行った。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●技能を身に付けさせるための指導が難しい。</li> <li>●運動に苦手意識がある子が参加できる授業づくり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループやペアの活動を多く取り入れ、他のグループの運動のよいところを学ぶようにした。</li> <li>・教師や児童が模範演技等をし、やり方を目で見て、イメージをもたせられるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに毎時間のめあてを明確に示し、授業終了後にその日の活動を振り返り、自分で到達度が分かるようにして、その単元における自分の苦手なところを意識できるようにする（一小スタンダード）。</li> <li>・がんばったところを全体で共有していく。全員がすすんで活動できる授業を作る。</li> <li>・友達の上質なプレーや演技を見る時間を設け、できるイメージをもたせる。</li> </ul>